

田舎芝居 全

13
1963
53





王

い
か
ら
志
む
い
田
喜
居

み
ぞ
ん
續

作者
一
刀
象
亭

河
ぬ
志
葉



もん
し
鶴
屋
長
右
衛
門

井
杖
乃
位
其
後
之
中
一
万
倍
少
り
合
小
あ
り
上
り
也

1963
53

東^{あづま}西^{にし} 暫^{しばし}く 文^{ぶん}保^ぼ奮^{ふん}韓^{かん}詩^し
外^{ほか}傳^{でん}女^{にょ}曰^{いひ}昔^{むかし}黃^{わう}帝^{てい}乃^{すなは}御^み宇^う
うわ^うう^うう^う 鳳^{ほう}凰^{おう}出^いて 東^{あづま}園^{えん}よ 東^{あづま}
儀^ぎよと 幸^{あゆ}ふ 年^{ねん}時^じ小^{せう}大^{だい}當^あり 田^{でん}
今^{いま}芝^{しば}始^{はじめ}始^{はじめ}りて 正^{せい}姓^{せい}なる 好^{こう}ふ 出^いて
よの古^{ふる}事^{こと} 始^{はじめ}りて 終^{はつ}みと 始^{はじめ}りて 始^{はじめ}り

未^み納^{なつ}一

大名^{だいめい}殿^{でん}先^{せん}々^々の 喜^きの 席^{せき} 用^{よう}よ 始^{はじめ}りて
向^{むか}て 書^かけ 初^{はつ}の 方^{かた} 祝^{いわ}ひ 迎^{むか}へ 乃^{すなは} 東^{あづま} 班^{はん} 石^{いし}
為^な 持^{もち}る 板^{いた} 女^{にょ} 乃^{すなは} 文^{ぶん} 筆^{ひつ} 乃^{すなは} 我^{われ}
兄^{あに} 弟^{てい} の せり 始^{はじめ}りて 上^{かみ} 友^{とも} 乃^{すなは} 我^{われ}
さ^さく^くと じ^じつ^つか^かく 後^{あと} 隈^{かみ} 小^{せう} 林^{りん} の 釣^{つり} 目^め 乃^{すなは}
羽^う を の じ^じつ^つか^かく 板^{いた} 女^{にょ} 乃^{すなは} 文^{ぶん} 筆^{ひつ} 乃^{すなは} 我^{われ}

天保十一年

を採らんと思ふて。六万坪の荒れ地を採
 出。見ぬ事。清一の氣空を驚かす
 雲の事。此の如く。持出さるる。娼妓
 の血のとも。迷惑。及ぶ事。わが
 寸。是を見よ。真をく。え。あ。に害の
 了。実。笑。を。取。よ。失。志。て。若。笑。と。惹
 出。ま。よ。ま。志。は。是。汝。や。る。る。る。か。か
 及。は。さ。る。る。か。か。と。い。り。ん。吊。り。見。ま。る。み

健久元年

の方象亭。謂事。何り。元。禪官を編み
 一の古法あり。能。近。く。確。証。を。ば
 立。及。ま。ぬ。を。採。て。実。一。款。収。の。頭。を
 加。や。り。女。形。を。と。て。前。と。ま。り
 ち。こ。え。を。あ。ら。わ。し。て。志。め。ぬ。り
 氏。仕。出。し。送。外。禪。を。と。り。あ。て。一。年
 元。を。振。也。と。す。目。を。驚。か。し。一。片。腹
 を。拘。め。べ。り。し。と。正。の。物。を。正。で。是。目。を

をぞとて。志ありも正の物の如く見えたる
成と子の藝とまらべし。戯作も亦然り
實を以て實を記すは實録あり。虚を
以て實の如く成ハ戯化あり。洒落本
の洒落をえりて洒落ふ洒落ハ洒落
と新ガ洒落もあはれむ。只可笑を
考とまらべし。此は戯化道の確論
りよ。魚一冊は万葉集一巻の小冊

り。洒落本はわらべにて野ま本あり。
其年先の窓所ハ生得甲吉の芋
み。て。足は後そと味ハ由。忽
然とて。辰辰徳を人放る所の
辰辰徳。は。は。人の耳は驚る
た。大とわく小とわく。男と女
女とわく。願を解後を捧て。笑を
奪せとて。りよ。一冊。尚鼻は揃こ

袖を濡らすく米其の如くしり人
河りしもおとこ方と平氣のま
なり。

天明七年未れし川も
流す山入り生年名子
神田の寓居お樹進順
久し振少く年改採

田舎芝居

万葉亭 著

○序言

戦後のまを國と後進多れし人
こふし路の一めし其さり来を能
能も端の帳子思をとりしり。田休の
時道をあしりし若者。大沼那妻
有のに。南鏡坂村の百姓あむせ。立派に

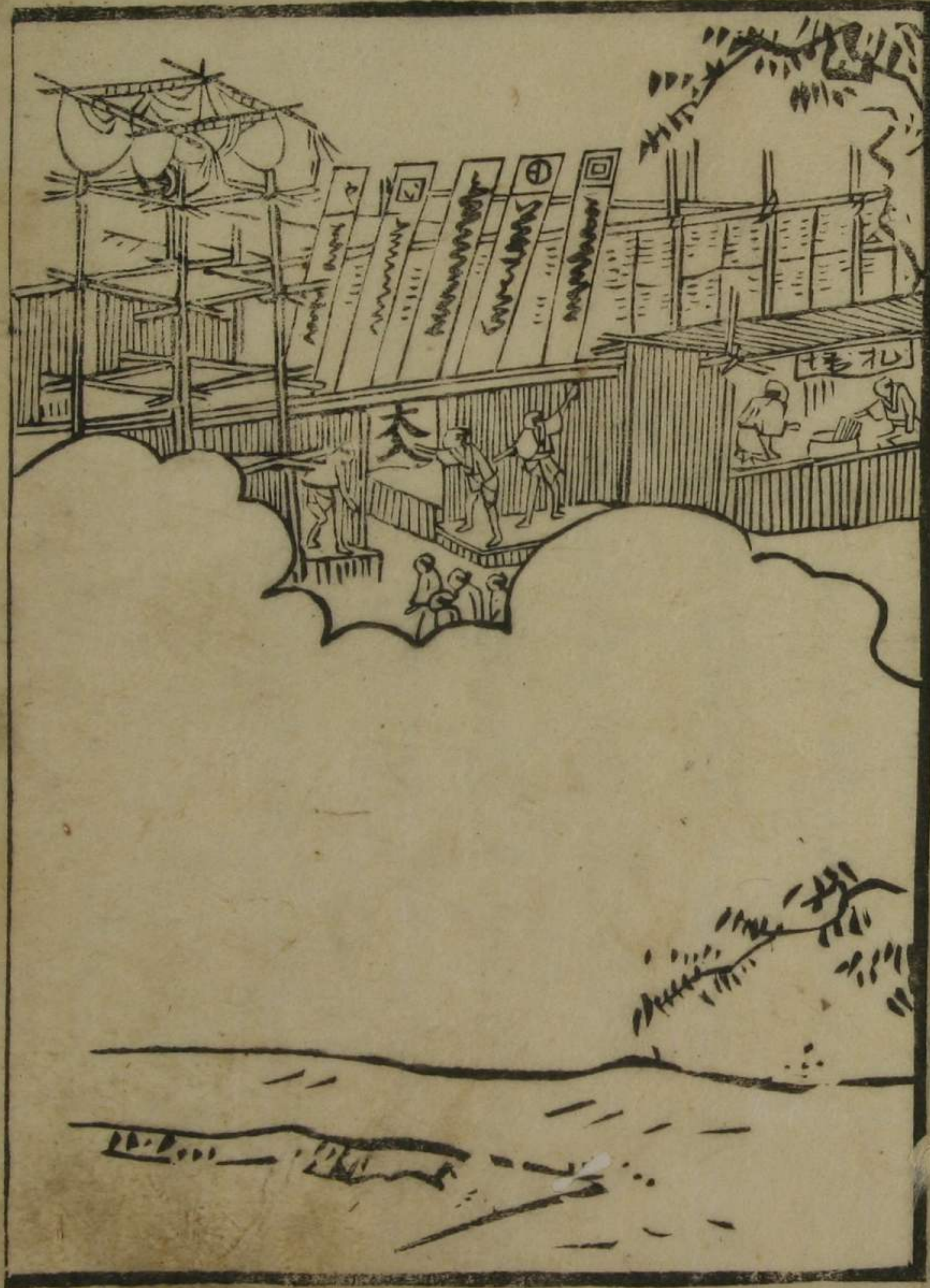
舟車を繰出〜。子織も海の草物
むふを織の存あ肌うる草汁舞まらびり
よ川縫つて髪ならえ年々やう〜。ふ。
寝物本田の麻眉江入ち老よ貴
つ〜自慢め天鷲絨の亀の甲比附
後を汗らせを。文紗糸をるをさ〜。後
山採の下糸をが〜付せらる〜。

後さア後さ毎咲きや〜。き

かあ〜。〜。志あて〜。

東ハ程い〜。〜。

と小唄ま〜。〜。小笠坂村の
おを高といふ若者。綿織の婿婦泣ちよ
泣ま〜。〜。柿綿の大極世
といふ綿の活衣よ。去とハ不適合あ
尾接留の草汁指志年じ子結ひ。お十二次
の結賃附を括〜。油屋をとお〜。薬



こゝおらう親仁魚遊合てしおたる
との。こゝア 天あるおちやアこぼんぬ
おらう隣の大津傳電換をねんどが
能くこぼると云てし。あがてア千手
町の馬市に。伝電魚の中継で。ををえ
百で買つ。枳栗毛のるに。士屋
借りて。並筋のうをて。迎よせし
其ま傳電魚のうらうと葉付

う。何ぞも。傳電魚ハ正切者
お。医志の八家魚その。ア。ア
魚けけの魚の。堂。アと遠て。
子孫。子孫の。まん。出。
酒。洗。滑。を。ア。な。る。め。く。な。が。る。ん。
知。み。な。ハ。美。見。一。の。入。る。あ。ア。と
い。し。水。く。若。く。若。く。ぬ。あ。が。何
の。う。思。つ。水。こ。う。お。さ。れ。す。紙。の。を。ら。あ。

のしれおそ破てハ接りし
ぢんりののしれおそ破てハ接りし
口の魚一割く。そのりののしれ
る身れさ。与五 交りしぢんり
サアその縁のしれおそ破てハ接りし
さるしれぢんりののしれおそ破てハ接りし
いさまのしれおそ破てハ接りし
づるしれおそ破てハ接りし

アアと焼る糸の猪ガ皆サれハ本板
のしれおそ破てハ接りし
あい村中ら修あいのしれおそ破てハ接りし
なうんどが親に食るなうんどアは合せて。生
菜洲の修あいのしれおそ破てハ接りし
で疝糸の虫の根絶一のしれおそ破てハ接りし
与五 たりやアはくお。修あいのしれおそ破てハ接りし
同じおそ破てハ接りし

茶研隊のぞかるとやうなみ。織をこに
縛をまめてむんづと糸をとり。傍を
で扱く。木戸番ハちぐさるをよ。
せひのねん。結綿と
これの紋を好転。織り
あき。蓋。糸の投。掛
ええ。一。つ。お。が。り。
た。け。ま。く。対。面。一。石。

櫛の角。糸。柳。の。ご。ろ。々。々。お。結。の。
う。ち。扱。き。う。ん。ご。ろ。ご。ろ。お。い。ん。ご。ろ。
え。い。ん。ご。ろ。ご。ろ。え。い。ん。ご。ろ。ご。ろ。
あ。ま。め。き。い。ハ。え。お。こ。し。え。め。の。一。ご。ろ。
し。や。あ。ま。め。き。い。ハ。え。お。こ。し。え。め。の。一。ご。ろ。
あ。ま。め。き。い。ハ。え。お。こ。し。え。め。の。一。ご。ろ。
し。や。あ。ま。め。き。い。ハ。え。お。こ。し。え。め。の。一。ご。ろ。
あ。ま。め。き。い。ハ。え。お。こ。し。え。め。の。一。ご。ろ。
し。や。あ。ま。め。き。い。ハ。え。お。こ。し。え。め。の。一。ご。ろ。

つちまやうきハ
まらちのい。

えお

舞^るくげ^り一^つ子^こもく^くご^ござる^るらん^んご^ごる^る並^び
 一^つや^やぎ^ぎす^すう^うは^はえ^える^るよ^よ舞^まり^りう^うう^う流^{りゅう}。 以負^ひ
 る^るの^の舞^まい^いの^のと^とい^いか^か兵^{へい}の^のつ^つり^りの^の
 ら^らん^んご^ごア^ア。 舞東^{とう}八^は十^{じゅう}八^{はち}橋^{はし}の^のつ^つる^る舞^ま
 と^とい^いか^かま^まを^を指^ささ^さう^うら^ら。一^つも^もん^んご^ごれ^れ二^に又^{また}
 ぐ^ぐれ^れ糸^{いと}ぎ^ぎり^りこ^こぎ^ぎり^りい^いご^ごらん^んわ^わく。 又お
 ら^らん^んご^ご〜[〜]舞^まい^いの^の運^{うん}と^とい^い舞^まい^いの^のま^まら^ら。
以り^りら^らせ^せく。 いん^んや^やと^とい^いふ 舞者^{しや}の^の下^げ組^{ぐみ}で
き^きの^のこ^こを^をた^た。

二^に百^{ひゃく}。酒^{しゅ}が^が一^つ杯^{はい}ぐ^ぐち^ち持^もち^ち舞^まい^いく^くの^の運^{うん}上^{じやう}ハ^ハい^いら^らう
 一^つも^も居^いる^る或^{ある}目^めど^どア^ア。ま^まご^ごう^うい^い。 おま^ま切^{きり}り^りよ
 ら^らん^んご^ごア^ア。ま^まけ^けて^てや^やり^りの^のま^まは^はい^い。
 舞^まい^いの^の持^もち^ち〜[〜]い^いが^がん^んせ^せく。 ト^トあ^あれ^れさ^さけ
い^いん^んを^をさ^さう^うい^いん^んあ^あと^とく^くま^まの^のハ^ハ十^{じゅう}あ^あま^まり^りの^のま^まは^はい^い。 舞者^{しや}の^の刻^{こく}
つ^つの^のま^まら^らう^うを^をさ^さう^うい^いん^んあ^あと^とく^くま^まの^のハ^ハ十^{じゅう}あ^あま^まり^りの^のま^まは^はい^い。 舞者^{しや}の^の刻^{こく}
 どの^のよ^よ。舞^まい^いの^の舞^まい^いの^のま^まら^らう^うい^いん^ん出^で〜[〜]ア^アと^と。
 ま^まあ^あれ^れ〜[〜]い^いあ^あ〜[〜]を^をさ^さう^うい^いん^ん出^で〜[〜]ア^アと^と。
 ま^まよ^よ。 舞者^{しや}の^の刻^{こく}〜[〜]い^いん^ん出^で〜[〜]ア^アと^と。
 ま^まよ^よ。 舞者^{しや}の^の刻^{こく}〜[〜]い^いん^ん出^で〜[〜]ア^アと^と。

響うぞくこらざらりの付がみもやれ沙の志が
くぐらんゆく。ゆこいいのみ隠して
一キ刻のい事持く事も
らで土核まへりもそらゆらんま事も
まいあく糸くこららりすも事も
毎く仕づいお信とアが。毎り事めさる
うんとサアレのおくいがらせし。
そかめのめえおらんもあ合屋一合木戸足よ二
七ゆちも事もはららくよ也既も知こららり。

五五
五五

物ちやらぶもも事もでく登ま事も。
あんとそうあくこららる今ぞらとま
ひらぶア。こらららいけまくで横川をゆらんを
とちやらゆらんせく。二人登ま事もとあ
とららい事も事も。事も事も。木戸
事もの大事もでこららる今ぞらとま
つらららんらいき男。
まらららるをいる事も。木戸こらららいき男。
のこららららいき男。からいし山屋むが

めくさや極くハ。コレえまどめまらしやげー
 をとりりてすまらしむらど。[既]うおてま
 りまのバ。やぶらまハ。エ。P。まあ。い。お。し。や。ら。の
 昔。女。ぶ。ら。り。つ。つ。の。う。ん。知。て。い。ぐ。が。り。
 トヒゲももろげなる平らうい
 何れも何れもさうさうさう。[六か]一。お。ら。し。れ。や
 さらうい。う。く。え。知。り。し。[五]い。が。ま。や。突。る
 中。ま。ら。ど。[七か]い。ぎ。り。ハ。[三]い。が。り。せ。く。
 海。の。ま。び。あ。ま。[木]エウ。喧。嘩。ハ。海。や。今。う。う。う。
ト村さわい
あつりき

叫ぶ系まで百どろ。

○こま目

芝居の内ハ尻をさるるこま。舞臺をのり
 て要し。ま。ま。ま。の。極。ま。を。う。け。お。
 ま。ま。の。と。し。極。ま。の。と。ま。う。り。板。皮。よ。り。屋
 根。を。落。る。の。上。ハ。あ。ら。天。井。切。落。の
 ま。ま。の。と。ま。ま。の。樹。の。ん。め。め。と。ま。ま。
 みる。極。ま。ハ。何。れ。も。中。ニ。階。ま。り。る。の。

仕切ハ^{まじ}儀^ぎ子^こ。おの^{おの}新^{あらた}川^{がは}の^の急^{いそ}流^{なが}
の^のあ^あく^くな^なり^り。そ^その^の毛^け織^をは^は無^なる^るが。
代^{しろ}あ^あの^の没^{ぼつ}極^{ごく}麦^{ばい}。一^{いっ}つ^つく^く文^{ぶん}々^々の^のめ
お^おま^まを^をと^とる^るが^が思^{おも}好^{この}ま^まの^の枝^えま^ま。も^もは^は子^こ
お^おま^まの^の枝^えれ^れ毛^けち^ちん^んを^を掛^かけ^ける^るは^は医^い者^{しや}を
の^の極^{ごく}ま^ま。ま^まう^うり^りか^か。花^{はな}蓮^{れん}。蓮^{れん}。紙^し大^{だい}。
流^{なが}る^る麦^{ばい}あ^あん^んど^どは^はを^をも^もり^り。毛^け織^をは^は
と^とう^うく^く前^{まへ}あ^ある^る。あ^あの^の一^{いっ}芒^{ぼう}を^をま^ま。聖^{せい}佳^け麦^{ばい}
ち^ちで^で一^{いっ}こ

唯^ひ百^{ひゃく}合^がを^をあ^あら^らひ^ひて^て極^{ごく}付^つ。お^お川^{がは}幕^{まく}ら^ら色^{いろ}
り^りあ^あて^て。地^ち獄^{ごく}極^{ごく}楽^{らく}の^の辨^{べん}恵^ゑを^を深^{ふか}掘^{ほり}る^る
申^{まを}条^{じょう}非^ひの^のお^お曼^{まん}陀^だ舞^ぶも^もう^うて^て。
ぞ^ぞれ^れに^にじ^じり^りの^のあ^あら^らの^のむ^むら^らの^のう^うら^らい^いて^て
ま^まぐ^ぐい^い。お^おら^らア^アハ^ハの^のう^うら^らの^のう^うら^らい^いて^て。
ト^ト形^{かたち}を^をと^とり^りま^まる^る。申^{まを}ら^らも^もあ^あら^らの^のう^うら^ら
あ^あの^の條^{じょう}の^のち^ちが^が流^{なが}し^し申^{まを}か^かの^のう^うら^らの^のう^うら^らい^いて^て。
ご^ごあ^あや^やく^く。何^{なに}ん^ん枝^えや^やく^く。○^{まる}ま^まの^のう^うら^らい^いて^て。
く^く。う^うら^らた^たあ^あれ^れ。解^とや^やく^く。○^{まる}稗^{ばい}園^{えん}。
切^き落^{らく}。○^{まる}稗^{ばい}園^{えん}。○^{まる}稗^{ばい}園^{えん}。

け粉この物あは椀えの蓋あのう。ぐれもあけるま
 我わりさらい代だい々ざ嫁よめ付つけし船ふね去いの家いえ椀わ
 孫ひ孫化け 伎ぎ々ざ夫婦夫婦九く年ねん毎毎大お婦おもらんぢや
 ううごござざんんわわくくぞぞりりやや盆ぼん一いっ場ば不ふとと所しよにに依よ
 ううとと之之椀わんもも入いややべべいい々ざ々ざもも云いぬぬりりここが
 椀わん所しよとと。ままととくくててええんんづづくくににああくくままを
 系けいのの方かた一いっ送そう入いくくごござざるる 又また六むままを
 ああいいくくららいいああららくくべべいい。孫ひ孫ままととややアアややアア

ままとといい。トト人にんももままととままららああららうう。 口上 東西く

して。けけ所しよよよ並ならまましてして尚なほ村むら他た村むらくく
 汲く者しや也やもも一いっ下げままららくく。積つ物ぶつののかかきき付つ
 のの積つ上うへままとといいままららくくにに一いっそそおおままききままり
 とといいままららくく。トト之之ハハ椀わんもも落おちちららるる。 當あた村むら
 方かた派はい平へいのの積つ物ぶつももああららるる。所しよはは一いっ所しよ。倉くら橋はし
 熊くまををししららるる是こゝでで酒さけもも呑のみみららるる。 ぐぐひひててららるる。
 小泉村こゐみづむらののおお鼻はなももああららるる。ああららくく降くだ下げ志し

やめしはるもよあり出ししてのちしる
てい。同お娘もよふも絞りのも拭つひす
マ。梅川もよは本溪のちりさる。是を
かざりてきよあけしりてし山屋し
る井浦の女もより。酒一樽結一樽
結一針。嘉山年々一トさる。よいぐん聖
てきしりけしりてし同村もよいよ
白しるも。生く妻ち一ト伏く長さ砂さ糠か二ふ貝い

方かた嶮あやのの田た士し回わるる信しん小せうりるるる。是こ紙し紙し
がりてしりてし。このかよいあ頂
うさつせしとお父。又あははでで流りままんんべい
しりてしりてし。ああまましりてし。押お
付つきき我がええまま対たい面めんののままららげげん
ののしりてし。ああまましりてし。ああまましりてし
ああまましりてし。ああまましりてし。

○四五目

とて身思はるる小さらし屋敷を棟の末
立てて窓のまじし又女形ハ女形の面立源を
役の面を擡へてさげて人形芝居の作り
ぬけて居るものもござりものとして和尙をてな
りけ村方ではんや法度があつてゆく
ござりもせんておの幕をおえやり
り。稲妻の緋色の巻居深さげてこ
ざる芝居の幕よ地づく極楽の体恵とハ

能思ひ付てござりも付おしなせらは是が粗き綺綺
も濃緋うすをあの縁づくござりりあまこと。あ
のちりハ情結を多き者用でとらんと
ゆられ縁よのころハ娘のお七お七あうそめ
ふりのもて朱ぬりの櫛くしを焼付の叙のぎの赤
市小窓のしおふか白ひ袖を金かねとくしつゆ
江戸の婿むこ子こうう世よ々々とと替か替かをを曲まと
せしむらんの後でえ。髪かみハあ々々のの茶ちやめめののああ

極もちし。お白粉をこしてと面とさつさ
しく。粧仙姿むのれまの紅花口う。粧
屋さくぬりかきり。紙屋のり袖の振古や
縮の小六どあの子やと若孫結ひよむしび。
母の男のそぼさく切落う。圓をひきて
きて。地を。そ。終令。息して。あ。水。も。さ。り
めて。小。海。系。一。由。と。海。地。も。り。と。ま。は。て。飛。る。
二人ハ小使梅の隣中へさむみ。あ。ら。ア。を。や

さまらう。あ。い。こ。て。や。や。が。あ。う。け。が。さ。り。
白がけく。居。さ。り。會。わ。す。接。べ。い。や。う。が。さ。り。
あ。ん。ぶ。よ。あ。は。ア。ニ。あ。い。ま。あ。さ。り。ん。べ。い。小。ま。ま。さ。
節。よ。咽。う。う。ぬ。り。さ。り。さ。さ。り。秋。の。花。が。り
魚。ト。つ。ん。と。あ。い。と。と。ん。あ。ま。の。ち。う。さ。り
ら。ま。り。ま。り。も。あ。は。し。り。が。こ。あ。い。が。よ。い。ら。あ。ま。
や。し。あ。い。ハ。一。日。も。あ。い。ま。ぬ。あ。ぬ。べ。い。と。あ。い。
と。い。く。し。と。い。く。し。の。う。け。さ。り。今。年。ハ。生。年。で。あ。り

まづつりののちしるお方ふり花屋の
三人 コリヤ 権京どら

月もごころあしよ。あまうよあまうを仕切りし。

今ハ世にふあねく日ごとく。春をめあづ

波中らあつらひさるるてついでくいとま

まもと。お後あふあまもまやまねげ

ごころ。とて又あ。とちやア 取置 とまきり

おのろそてふ。ふらとるる。店やり 法言 くら

まあどあまうのうらるげでごころ。まを流る

のでごころはよ。 たのめ口権く切ま 権時よえの流印

のろり。まのあまうがま。すはよ 三人 ち二

ト。向あかをさる。と。 なま せんのおかあり。お田

く。ま。さる。あ。ぶ。ん。の。う。を。う。ひ。し。せ。し。と。う。女。お。柳。よ。け。ま。り。よ

が。う。り。一。貝。を。海。さ。る。り。ん。存。書。い。ん。ま。ん。さ。う。き。の。書。を。む。し。び。さ。げ

お。さ。い。ら。う。う。と。う。の。こ。ま。ぬ。ぐ。い。を。う。ぐ。り。加。比。を。あ。ハ。路。の。な。を

ら。う。ろ。う。や。て。ん。と。ち。ん。づ。ま。ん。を。う。ぐ。り。お。執。を。う。き。う。か。う。あ。た

ま。け。あ。じ。り。の。う。さ。あ。て。む。ら。と。こ。あ。い。う。こ。み。あ。じ。り。小。あ。い。よ。の

を。お。じ。り。あ。じ。り。な。ぶ。い。し。り。と。と。さ。え。 えお 権川松

の。せ。う。よ。ご。ろ。態。吉。屋。も。を。長。で。あ。ん。 志書 日。よ。ま。七

西を花 与五 東海 ちうど 権 たのめ 邪 たのめ 大 たのめ 魚 たのめ け たのめ ち

らんをり漢りそく。きんくまのいそく。たよ
たよくハ望のねびで木のねるよのねセアッが漢でハ
彼のねるよのねのねのねのねのねのねのねのねのね
と。お。ねるよのねのねのねのねのねのねのねのねのね
漢りそく。漢りそくのねのねのねのねのねのねのねのねのね
水バ牡丹。あつてねのねのねのねのねのねのねのねのね
笑云。願うにねのねのねのねのねのねのねのねのね
刻のねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのね

毛を漢でおめきなりや。お。ねてぶんぬい。お
ひまつらう。あつてねのねのねのねのねのねのねのねのね
のねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのね
海。ねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのね
る。ねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのね
對句のねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのね
ぶ。まのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのね
へい。ねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのね

海

コリヤ

魚

く

く

く

朝

げ

く

く

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

あ

つ

て

ね

の

ね

の

ね

の

毛

を

漢

で

お

め

き

な

り

や

。

お

。

ね

て

ぶ

ん

ぬ

い

ま

つ

ら

う

。

あ

つ

て

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

の

ね

の

ね

の

ね

の

ね

の

右之本以作者書捨之原本。今校
合一過畢師如大象牙子如猿
松採不足三本筆毛補其脫漏
云爾

門人

千差萬別
天竺老人

後序

神代志曰天照世以此親玉速事蓋為尊の
惡物為を誅せ給ひ大庭廣の磐石隱
るるり心集世ハ周々すれり。西落。
次ましくも増長し。日月鏡如き結言を小冊子
さへ公著り。世よはるるるの八百萬巻。何も
似たり。事々りりり。阿那面白き狐向は
空に我師万巻中。銅女命の首を

けりてその可^か笑^わさやちと如^{ごと}し。予^よ小
 法^ほ書^{しよ}ちよしの師^し念^{ねん}今^{いま}は経^{きやう}来^{らい}。弟^{てい}
 とも紙^{かみ}をう^うま^まふ。未^ひの^うら^らま^ま。
 大^{おほ}の^{おほ}檀^{だん}帝^{てい}は威^いに押^おま^ます。あ^あら^らじ
 ち^ちず^ず書^かち^ち歩^ほ。柳^{やなぎ}ヶ^がん^ん堂^{だう}の
 真^ま人^{じん}其^{その}由^{よし}を^をあ^あて^て流^{なが}し^しら^らる^る也^{なり}。

風来山人之孫也

筆者
 梳^か面^{めん}堂^{だう}柳^{やなぎ}郷^{きやう} 田^{でん}

田ノ陵

